

会館だより

第 3 号

昭和53年10月1日

国立婦人教育会館

National Women's Education Centre



▲ 本館及び宿泊棟(高層棟)

目 次

- * ひらかれた施設に.....大友よふ (2)
- * 主催事業..... (3)
- * 施設紹介(その2)会議室・講堂、ボランティア活動始まる..... (4)
- * 視聴覚教材(16mm 映画フィルム一覧)..... (5)
- * 回 覧 板..... (6)
- * 利用案内、会館日誌..... (7)
- * 嵐山町歴史シリーズ — 秩嶺蒼々(2) — 関根茂章 (8)

ひらかれた施設に

国立婦人教育会館運営委員 大友 よふ

山紫水明の地、埼玉県嵐山町に、日本婦人待望の夢が結実して、「国連婦人の10年」の2年目の昨秋に開館することができたのは意義が深い。婦人のことは長年に亘り差別扱いをされてきただけに、膨大な予算や建設地が決定するまでは、婦人議員を中心に全国各県婦連や各種の婦人団体幹部が思想・信条の違いを越えて連帯し、政治参加の実を挙げた最初のものではなかったろうか。

国内外婦人の研修・交流と情報活動を目的とする事業のカリキュラム作成にも、かねて民間の一員として加わり、地元埼玉県婦連代表として今、運営委員の末席を汚している私は、このすばらしい「婦人教育会館」が閑古鳥を啼かせることのないようにと、会う人ごとに宣伝これつとめている。

私はこの会館に関係をもつようになった数年前から閉鎖的な施設にしないでほしいと何時も文部省に申し入れてきた。というのは公共物の管理規定はとかく管理者側に都合がよくできており、そこに勤務する人々も利用者より建物を優先したり、自分達の都合にあわせて利用時間の設定や器物の利用等を規制したりすることが多かったことを多年経験していたからでもある。

全国から集まって来る婦人たちといってもトップレディーから、“マナー以前”の婦人に至るまで極めて層が厚い。「立派な婦人教育会館だそうだから観にゆこう」という層を快くうけ入れること——それが次へのステップを高める場になるだろう。資料の充実した暁には婦人団体の研修や情報の交換にも、専門家の図書利用にも快適な場となり、酌めどもつきない泉ともなるであろう。

滞日中の外国婦人たちや留学生、来日される婦人指導者との交流など、未来はとても明るい。私は全国から集まってくる団体の幹部や利用した友人たちから、国際感覚豊かで、気どらない庶民的な縫田館長への讃辞を聞きながら、わがことのように嬉しく得意になるのである。

数年前結婚した息子夫婦とともに、すばらしい団地に移り住んだ友人が、姑思いの嫁だと嬉しがった筈なのに、半年もたぬ間に「格子なき牢獄よ」と嘆いて来た。姑思いの嫁が「お母さんは長いことご苦労なさったから、これからはお台所もお掃除もみんな私にまかせて下さいね」とみんな仕事を取りあげてしまったからだというのである。

善意が必ずしも善い結果を生むとは限らない場合もあるだろうが、今日の隆昌が何時までも続くよう祈るものである。

(全国地域婦人団体連絡協議会会長)
埼玉県地域婦人会連合会会長)

主 催 事 業

●全国婦人団体研究集会

昭和53年度の全国婦人団体研究集会は、全国的な情報交換及び研究協議を目的に、次の要領で開催する。

期 日 昭和53年10月24日～26日

会 場 国立婦人教育会館

参加者 都道府県・指定都市における全県・全市の組織の婦人団体の役員職員各3名計168名

主 題 婦人団体が行う婦人教育活動の現状と課題

プログラム

＜第1日＞ 開会行事・講義・情報交換

○講 義 婦人教育施策の現状

文部省社会教育局婦人教育課長 志熊敦子

＜第2日＞ 事例研究・部会別協議・地域別交流

○事例研究及び部会別協議のテーマ及び助言者

(部会別協議は各テーマ毎にそれぞれ2分科会とする)

(ア) 国内行動計画に対応した学習活動

島田とみ子(評論家)

矢口 光子(農村生活総合研究センター専務理事)

(イ) 婦人の社会参加とボランティア活動

吉沢 英子(関東学院大学教授)

藤原 房子(ジャーナリスト)

(ウ) 若い母親のための学習活動

武田 京子(主婦問題研究家)

前田美穂子(岡崎女子短期大学講師)

＜第3日＞ 全体協議・シンポジウム

○シンポジウム

テーマ 国際社会と婦人

講 師

田中 里子(全国地域婦人団体連絡協議会事務局長)

中村 道子(成城短期大学教授)

倉田 保雄(共同通信社編集委員)

●昭和53年度第3回公開講座

会館では婦人一人ひとりが広い視野から当面する課題を探究する手がかりを得ることを目的に、学識経験者による公開講座を行って来たが、本年度第3回の公開講座を次のとおり開催する。

期 日 昭和53年11月15日(木) 午後2時から4時

会 場 国立婦人教育会館講堂

講 師 評論家 村山 リウ氏

テーマ 「源氏物語と現代」

参加希望者は10月27日迄に往復ハガキで当会館事業課宛にお申込み下さい。(1人1葉)

●婦人教育施設研究集会

婦人教育施設研究集会は、昨年度に引きつづき、行われるもので、公・私立の婦人会館が婦人教育事業を企画・実施する上で当面する課題を明らかにし、今後の婦人教育事業の進め方等について研究協議するものである。

期 日 昭和53年12月5日～7日

会 場 国立婦人教育会館

参加者 公・私立婦人会館の職員(婦人教育事業の企画・実施を実際に担当している職員)

●婦人教育研究セミナー終る

9月7日(木)から9日(土)にわたって、第1回婦人教育研究セミナーを開催した。

今回のセミナーでは、「婦人の能力開発の課題—主体的な選択のために」をテーマとし、わが国の婦人による学習活動の実態を見直し、婦人の真の自立のための能力開発の在り方について、日高幸男 早稲田大学教授の討議司会のもとに、10名の研究者・専門家により討議が行われた。

その概要は次のとおりである。

＜第1日＞ 9月7日(木) 午前中「セミナーのすすめ方」に関する協議を行い、午後1時30分から5時まで「議題1 我が国の婦人の学習要求と学習の現状」について、山本和代 日本女子大学女子教育研究所主任研究員、田村喜代 東京学芸大学教授、諸岡和房 九州大学助教授を基調報告者として、社会教育及び学校教育に見る学習要求の現状の検討と、諸外国との比較をした。ここでは、社会教育の面からは趣味型学習の優勢、学校教育の面からは女子の人文科学・家政・教育学専攻への偏向が指摘された。これに対しイギリスに見る多様な成人教育の形態が紹介された。

＜第2日＞ 9月8日(金) 午前9時から12時30分まで「議題2 婦人の学習と自立」について、倉沢進 東京都立大学助教授、高野フミ 津田塾大学教授、白井厚 慶応義塾大学教授、富士谷あつ子 京のおんな大学主宰を基調報告者として、現状のような婦人の学習は、主体性を育てる上で十分であるか否かについての考察等が行われた。各々「地域の住民活動に見る学習と活動のパターン」「専門性の高い職業のための再教育の場としての大学解放」「性役割分業のステレオタイプを破るための幼児教育」「高学歴女性のための成人教育活動の一事例」の発表があり、これを中心に市民活動と住民エゴの問題、地域における婦人の学習活動の問題点、婦人の自立阻害要因等の検討が行われた。

午後1時30分から5時まで、「議題3 能力開発のための課題と展望」について、星野久 奈良女子大学教授、妹尾美智子 神戸市婦人団体協議会専務理事、神田道子 東洋大学助教授が基調報告者となり、「奈良女子大学卒業生の継続調査に見る能力開発の現状と問題点」「神戸市における婦人大学の実践例」「本来の女性の特質と社会通念上の女性の特質の見直しの必要性等」についてそれぞれ提起された。これに引続き「自立とは何か」「学習とは何か」についての討議が行われた。

＜第3日＞ 9月9日(土) 午前9時から10時30分まで前日に引続き、自立のための学習内容を中心に討議された。

本セミナーの報告書は、出席された研究者の協力を得ながら会館においてとりまとめる予定である。

●昭和53年度第2回公開講座終る

7月18日本年度第2回公開講座が開催された。今回の講師は、朝日新聞論説委員松山幸雄氏で「婦人と国際理解」をテーマに数々のエピソードをまじえての約2時間の講演であった。岐阜、愛媛、石川、神奈川など各地からの参加もあった。

施設紹介 (その2) 会議室・講堂

＜会議室＞

各種婦人団体、婦人学習グループの連絡協議等の会議に主として使用されている。

◆大会議室

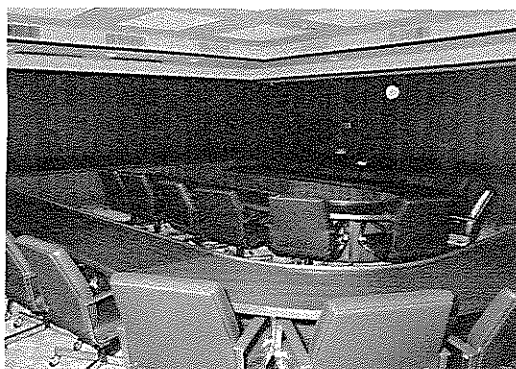
座席数は122席であるが、補助席を利用すれば最大限250人の利用が可能である。この大会議室の特徴は同時通訳装置が設置されており3か国語の同時通訳が可能である。さらに2階には傍聴席が38席用意されている。その他16mm映写機、スライド映写機が常設されており、いつでも会議・研修会に供することができるようになっていて、また、事前に申し出があればビデオ等で会議・研修会の模様を録音録画することもできる(テープは利用団体が準備する。)

◆中会議室

座席数42名、テーブルは馬蹄形に二重に配列されている(写真参照)。会議・研修の内容、方法によっては効果的に利用することができる。

＜講堂＞

座席数600席、ステージの広さは、250㎡である。ステージにはグランドピアノが置かれている。この講堂は、各種婦人団体等の大会、研究集会、講演会など幅広く利用されている。



▲ 中会議室

ボランティアの活動始まる!

開館以来、各方面から、会館の事業運営にボランティアとして協力したい旨の申し出を受けていたが、このほど、直接または各県・市町村教育委員会を通じて申し出のあった方々を対象に、去る8月9日、説明会を実施し、協力の登録をしていただいた。

その概要は次のとおり。

1. 趣 旨

国立婦人教育会館は、利用者の多様な学習活動に対応し、研修・交流が効果的に行われるよう、その活動への援助を協力者に依頼する。

2. 協力者への依頼内容

- (1) 各施設(研修室、美術・工芸室、調理室、音楽室、情報図書室、幼児室等)を利用する際の世話及びVTR等視聴覚教材、教具等の使い方の指導
- (2) 施設の案内
- (3) 実技の提供(茶道、華道、ピアノ演奏等)
- (4) プログラム運営の助言、相談等
- (5) 周辺の史跡、文化財等の説明
- (6) 図書・資料の整理

- (7) その他(外国人に対する案内等)

3. 協力者の資格

会館の事業にボランティアとして協力する意志があり、上記2の(1)から(7)のいずれかの内容について協力できる人

4. 協力依頼の手順

- (1) 利用者の協力を必要とする内容に基づき、登録者の中から、会館が依頼する。
- (2) 協力者は、会館からの連絡により協力活動を行う。

5. 協力者の状況について(9月1日現在)

○施設の利用についての世話	9名
○図書・資料の整理	11名
○実技の提供	6名
○幼児室の世話	4名
○文化財の説明	1名
○プログラム運営の助言・相談	10名
○その他(外国人に対する案内等)	4名

※ なお、ボランティアに関する問い合わせは、直接当会館事業課まで。

▶視聴覚教材16ミリ映画を研修計画に取り入れよう◀

開館以来利用者の多くから要望の強かった16ミリ映画フィルム144本(次ページ参照)が近く購入される予定である。

16ミリ映画フィルム一覽

No	題 名	映写 時間	No	題 名	映写 時間	No	題 名	映写 時間
① 個人の生活の向上に資するもの			50	二人だけの出発	32分	101	北国のとも子	33分
(1) 教養・情操に関するもの			51	結婚とは	31分	102	ボランティア活動の手引— かたがひるため —	30分
1	日本近代女性の歩み	41分	52	妻ありてこそ	31分	103	婦人のボランティア活動	30分
2	絵 巻	28分	53	みなおそう食生活	27分	104	寝たきり老人の介護 —食事編—	20分
3	飛 鳥	26分	54	生活を考える	28分	105	〃 —お世話編—	20分
4	絵図に憑ぶ江戸のくらし	33分	55	みなおせあなたの化粧法	20分	106	恥かしい日本人 (スライド)	20分
5	平家物語の世界	25分	56	浪費への挑戦	26分	(6) 国際性に関するもの		
6	京都の川	34分	57	暮しをふりかえる	25分	107	世界の都市交通	50分
7	最上川の詩	47分	58	父この強き者	30分	108	外国人から見た日本人	27分
8	奥の細道	30分	59	嫁姑のきずなを考える	31分	109	730日の青春	50分
9	富 士	75分	60	嫁ぐわが子に	33分	110	大いなるアメリカ	30分
10	特別天然記念物—ライチョウ—	32分	61	父と母への赤信号	30分	④ 職業生活の向上に資するもの		
11	彫る —棟方志功の世界—	38分	62	心をひらく —家庭の精神衛生—	31分	(7) 職業生活一般に関するもの		
12	京都の庭園	27分	63	お母さんに乾杯	30分	111	誰の責任	20分
13	法 隆 寺	26分	64	小さな愛の詩	32分	112	明るい職場	17分
14	日本の書	20分	65	どろぼうの一人言	31分	⑤ 教育方法の向上に資するもの		
15	石の文化	29分	(4) 家庭教育に関するもの			(8) 学習者の特性に関するもの		
16	伝統工芸	21分	66	ひとりのできる —生活習慣と自立—	27分	113	豊かな高齢期	28分
17	うつわ —食器の文化—	40分	67	豊かな心を—自我のめざめとお母さん—	28分	114	老後を変える	27分
18	山雲清声	30分	68	あそび友だち —社会性を身につける—	27分	115	趣味ある老後	30分
19	能 —鑑賞の知識—	38分	69	母と子の心がかよふとき	30分	116	実りある目に	33分
20	詩人のふるさと	22分	70	心の扉をひらく	20分	117	婦人とリーダー	25分
21	日本の建築	28分	71	ひなにとって親とは何か	20分	118	主婦その生き方と意見	33分
22	日本の女性 (英語版)	28分	72	子どもを見る目	45分	119	あなたもリーダーに	31分
23	日本の四季 (米語版)	29分	73	こっち向いてよママ	46分	120	P.T.A.に学ぶ	33分
24	日本の年中行事 (米語版)	21分	74	幼稚園 —幼児の活動と教師の役割—	30分	121	Pの不満・Tの期待	30分
25	伝統音楽への招待 (英語版)	25分	75	子どもの性の悩みと親の態度	30分	(9) 学習援助の方法に関するもの		
26	ジュリアスシーザー入門 (英語版)	28分	76	おばあちゃん子というけれど	28分	122	婦人のライフサイクルと学習課題	20分
27	マクベス入門 (英語版)	28分	77	母と子の旅	32分	123	考 え る	30分
28	リア王入門 (英語版)	26分	78	思い出の一冊の本	30分	124	会議の進め方	30分
(2) 健康・体力に関するもの			79	手づくり遊びと子どもの手	25分	125	学習のための会議	30分
29	みんなで心身をすこやかに	20分	80	中学生 —その愛と性—	32分	126	応接その心とかたち	26分
30	健康への招待	20分	81	大人になれぬ若者たち	33分	127	あなたのためのテーブルマナー	20分
31	成人病の予防	28分	82	娘の初恋	29分	128	暮しの中の敬語	30分
32	女性と出産 —美 し き 成 長—	28分	83	親の知らない世界	31分	129	O.H.P.のつくり方	20分
33	〃 —結婚への提言—	20分	84	揺れ動く高校受験生	30分	130	8mm映画製作の手引	30分
34	〃 —妊娠して—	20分	85	非行って何	30分	131	視聴覚教材の利用	20分
35	〃 —母となるために—	20分	86	青春に学ぶ	20分	⑩ 社会教育施設等に関するもの		
36	〃 —妊娠中の異常—	20分	③ 市民性の向上に資するもの			132	自然にはばたく一歩ゆく青少年教育施設—	20分
37	〃 —出産をひかえて—	20分	(5) 地域社会生活に関するもの			133	視聴覚センターの働き	20分
38	〃 —赤ちゃん誕生—	20分	87	食品公害を追求する	28分	134	私たちの美術館	20分
39	〃 —出産を終えて—	20分	88	パニック —災害時の行動と心理—	20分	⑥ その他のもの		
40	生活の中のスポーツ	28分	89	細 川 紙	30分	(1) そ の 他		
41	母と子の体力づくり	30分	90	中 山 道	30分	135	みつばちマーヤの冒険	30分
42	水泳教室	20分	91	埼玉無形文化財	30分	136	フランダースの犬	30分
43	バドミントンの基礎技術	30分	92	過疎への挑戦	50分	137	パンダのふるさと	19分
44	ローズウォールのテニスレッスン	28分	93	愛の養子たち	25分	138	まんが日本昔ばなし —舌切雀—	11分
45	楽しいバレーボール	21分	94	ふるさとに生きる母たち	31分	139	〃 —わしらべ長者—	11分
46	オリエンテーリングの基礎知識	21分	95	婦人学級	29分	140	〃 —さる地蔵—	11分
47	いつまでも若く美しく	25分	96	ふるさととの道しるべ	30分	141	〃 —おずみのすもう—	11分
48	あなたの体力づくり	24分	97	私たちの住民参加	34分	142	おじいさんの不思議なおくりもの	16分
49	家庭の事故と救急処置	28分	98	こんにちはお隣りさん	31分	143	まけるなハッチ	30分
② 家庭生活の向上に資するもの			99	聞かれる心の広場	32分	144	人 魚 姫	10分
(3) 家庭生活に関するもの			100	思 いや り	30分			

回 覧 板

● 情報図書室の開室

正式の開室は、54年度からの予定であり、現在、図書資料の収集及び設備の充実等開室の準備を進めているが、当面は、52年度に購入又は寄贈のあった図書資料についてのみ、ボランティアの協力のもとに開室することとし、次のとおり閲覧・貸出しを開始した。

- 開 室 日
毎週、月曜日～木曜日（祝日を徐く）
9：30～16：30
- 貸出期間
図書資料については、会館利用期間中。雑誌類は一夜貸し（15：00～翌日10：00）
- 貸出冊数
図書資料は、1人3冊まで、雑誌類は1人1冊まで
- ブラウジングコーナー
情報図書室には、新聞・雑誌コーナー（ブラウジングコーナー）がある。このコーナーは、毎日、午前9時30分～午後5時まで自由に利用できる。
- 研修用貸出資料
研修用としての貸出資料（1種につき最高100冊までの団体貸出し可）があるので、希望する場合は情報図書室カウンターへ申し出ていただきたい。



▲ 情報図書室

● 電話交換取次方法の変更

館内から館外へ電話をする場合、8月1日より、次の時間帯に限り、各宿泊室から100番ヘダイヤルして申込むことができるようになった。

午前7：30～10：00・午後3：00～10：00（なおこの時間以外は、従来どおり公衆電話を利用していただくことになる。）

電話料金は、電話終了後、退館までに本館1階玄関ホール受付カウンターで支払っていただくことになる。

● 日本家屋等の着工

日本家屋（平家建233.68㎡）と茶室（26.15㎡）の建築工事を7月15日に着工（2月中旬完成予定）した。また、環境整備工事（草原運動場を含む。）も7月29日に着工（2月中旬完成予定）した。これにより、本年12月完成予定の体育施設（体育館・プール）工事と共に、会館設置当初計画の全施設が完成に向けて着工したわけである。

● 休 館 日（10月～12月）

毎月、第1・第3の月曜日は施設設備の整備点検を行うため休館日とし、当日は利用者の受入れは行っていない。10月～12月の休館日は次のとおりである。

10月＝2日・16日、11月＝6日・20日、12月＝4日・18日・28日・29日・30日・31日

● バスの時刻表

（東武東上線・東松山駅（東口）＝会館）

東松山駅発	9時23分・10時30分・12時25分 13時45分・14時52分・15時25分
会 館 発	9時52分・10時59分・12時54分 14時14分・15時21分・15時54分

※ 所要時間 約30分・料金 140円

利 用 案 内

1. 利用対象

婦人教育・家庭教育の関係者及びこれに関心のあ
る人で、婦人教育・家庭教育に関する研修・交流又
は調査研究の計画をもっていれば、だれでも利用で
きる。

2. 利用申込み

申込みは、6 か月前から2 週間前までに所定の申
込書で申込む。なお、利用についての相談・問合せ
等は事業課事業係（電話 049362-6723）へ

申込書は、当会館又は各都道府県教育委員会社会
教育課にあるが、申込書の郵送を希望する場合は、
60円切手を添えて申込む。

受入の可否は、施設の割り振りや利用目的等を検
討のうえ、団体代表者あて文書で連絡する。

3. 利用できない日

毎月第1・第3月曜日の施設等整備の日、及び年
末12月28日～年始1月4日までは休館日で利用でき
ない。

4. 入館手続

利用者は会館本館の受付カウンターで次のような

計 報

当会館運営委員 波多野 勤子氏はかね
て病氣療養中のところ9月15日逝去されま
した。

氏の生前の当会館への御功績に対し深く
感謝いたしますとともに謹んで御冥福を
お祈り申し上げます。

入館手続を行う。

〈受付〉①「承諾書」の提示、利用の人数、研修プ
ログラムについての確認 ②使用施設についての案
内 ③他団体との交流等の諸連絡打合せ ④会館利用
についての留意事項の確認

〈案内〉宿泊者名簿を案内係に提出して、部屋割表
を作る。

〈会計〉宿泊者名簿に基づき宿泊施設使用料（宿泊
料）1人1泊1,000円を支払い、その領収書を案内
係に提示して部屋の鍵を受け取る。ただし、チェッ
クインは15時、チェックアウトは10時。

利用者は、入館手続きを終えたあと、利用日程に
従って会館における活動を開始する。

会 館 日 誌

- 53. 7. 9 小野田寛郎氏夫妻来館
- 7. 15 日本家屋・茶室着工
- 7. 17 職員定期健康診断
- 7. 18 公開講座「婦人と国際理解」松山幸雄
氏（朝日新聞社論説委員）
- 7. 24 縫田館長 フィジー出張（国連アジア
太平洋地域婦人開発センターの諮問委
員会出席）
- 7. 29 総理府青少年対策本部松浦次長来館
環境整備工事着工
- 8. 3 砂田文部大臣来館
- 山東昭子参議院議員来館
- 松永埼玉県副知事来館
- 8. 9 協力者（ボランティア）説明会

- 53. 8. 10 情報資料協力者会議（選書分科会）
- 8. 29 昭和53年度第2回運営委員会
- 8. 31 情報資料協力者会議（選書分科会）
- 9. 4
} 会計検査院実地検査
- 9. 5
- 9. 7
} 主催事業「婦人教育研究セミナー」
- 9. 10
- 9. 11 職員研修会（同和教育について(1)）
- 9. 18 情報資料協力者会議
防火訓練
- 9. 19 情報図書室閲覧・貸出し開始
職員研修会（同和教育について(2)）

秩 嶺 蒼 々 (2)

—— 会館周辺の歴史と風土の寸描 ——

関 根 茂 章

大蔵館跡と源義賢 会館の南、都幾川とその沖積水田をへだてて集落が在る。大蔵と言う。この神社はかつての大蔵館の一部なのである。大蔵館は帯刀先生（東宮の北面警固の隊長）源義賢（～1155、義朝の弟）の居館で、約3.4ヘクタールの広さであった。1155（久寿2）年8月16日、甥の悪源太義平（義朝の長男、頼朝の兄）にこの館で討たれた。上州多胡城から移って3年であった。

勢力の拡大を阻止する同族間の凄惨な出来ごとであった。館跡から200米ほど東の民地の一隅に義賢の墓がある。凝灰岩の五輪塔である。所有者は「たたり」を恐れて仲々応諾しなかったが、抜魂式をして修復した。今年1月のことである。館跡、墓ともに県の指定史跡である。

向徳寺と三尊像 大蔵の中北端にある古刹である。毎日、壮重にして余韻嫋々たる鐘の音に耳をかたむけるであろう。この寺の梵鐘によるものである。寺には銅造阿弥陀如来像及び両脇侍立像の三尊像がある。

1249（宝治3）年2月作の銘があり、国指定重要文化財である。当時の地方文化が極めて高度なものであったことを示している。この寺の20数基の板碑群は、板碑の典型で1293年から1410年のものである。

鎌形八幡神社と木曾義仲 会館の西南約1軒、都幾川左岸の杉木立がこの神社である。かつて源義家が奥羽平定の武運を祈ったところと言われている。境内の清水

は源義賢の嫡男駒王丸の産湯に用いられたと言う。義賢が大蔵館で討たれた時、駒王丸は2才であった。北武蔵岡部の別当齊藤実盛に助けられ、木曾の中原兼遠のもとに成長する。後年の旭將軍木曾義仲（1154～1184）である。また、神社には二つの華蔓（懸仏）がある。その一つは清水冠者源義高（義仲の長男、人質として鎌倉にあり、義仲戦死後、鎌倉を脱出、入間川の川原で殺さる）の銘がある。安元2（1175）年8月の年号。（嵐山町長）

昭和53年7月1日付「会館だより」第2号、秩嶺蒼々(1)の記事の中に、人権尊重の精神に反する表現を用いましたが、行政をあずかる者として、誠に遺憾なものと存じ、深く反省いたしております。今後は人権尊重の精神の高揚を図るため、より強固に取りくんで参りたいと存じます。（関根茂章）

7月1日発行、第2号に基本的人権尊重の精神に反する内容がありました。これを掲載し、配布したことについては、社会的影響の大きいことを反省しております。今後、人権尊重の実現に会館の事業、出版物等を通じ努力してまいりたいと存じます。関係者の方々に対し、御迷惑をおかけしたことを、紙上を通じ、お詫び申し上げます。（館長 縫田暁子）

●編集後記

この第3号を編集するに当たって、「開館1周年記念特集号にしてはどうか」という意見が出された。昨年10月16日に事業開始してこの10月でちょうど1年になるからというわけである。

一方、「開館記念日は開館式を行った11月12日にすべきである」、「機関設置の7月1日にすべきである」、あるいは「記念行事の計画もないのに“会館だより”だけ特集号にするのはおかしい」等の声があり、一時、編集会議は紛糾。結局、特集号の話はうやむやとなり、ご覧いただいたように、前号と同じ形となった。

編集委員一同、この“会館だより”が多くの人の

目にふれ、会館に関心を持っていただき、そして、多くの人に会館が利用されるよう願っている。

会館だよりの内容について、長短織りまぜてのご意見をお待ちしている。（M・N）

会館だより 第3号

発行日 昭和53年10月1日

編集発行 国立婦人教育会館

〒355-02 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

電話 049362-6711(代表)